

現場レポート

アート発信拠点紹介

エイブル・アート・ムーブメントを提唱しアートのネットワークを広げています。たんぽぽの家



1995年、阪神淡路大震災が起こった年に、エイブル・アート(可能性の芸術)・ムーブメントは、奈良県で産声をあげました。これは、障がいのある人たちが表現する「魂の芸術」などを通して、現代に生きる人々が忘れていた感性を呼び覚まそうという市民芸術運動です。

しかしながら絵画や立体造形、テキスタイル、陶芸などに取り組むスタジオや同時代人たちの表現を多彩な視点で紹介するギャラリー、コミュニケーションを深めるカフェ&ショップなどがあります。

また、個性あふれる絵画やイラスト、書など、障がいのある人たちのアート作品を商品化したりデザインとして使用できるようにして、社会に向けて発信するためにエイブルアート・カンパニーを2007



覧会やワークショップを開催し、「みんなが同じ生を受け、みんなに違う生き方がある。一つひとつの命が宇宙として光り輝く」ことを発信してきました。

たんぽぽの家にあるアートセンターHANAは、「Art」「Work」「Communication」をコンセプトに、障がいのある人、ない人、すべての人がアートを通じて自由に自分を表現したり、互いの感性を交感する活動を行っています。個性を活か



アートとは関係づくり、人と作品の間、あるいは人と人の間に、新しい絆をつくるのがアートの機能、と語る土の子陶房の岡部太郎さん(左)とエグゼクティブディレクターの浦井満さん(右)。

年に設立。障がいのある人がアートを仕事にし、自分らしく生きていける環境づくり、仕組みづくりを行っています。現在、登録されているカンパニーアーティストは60名以上。その輪はどんどん広がっています。

たんぽぽの家では、これまでの活動の中で培ってきた知識やノウハウをフォーラムやワークショップなどを通じて公開し、共有しています。このようにネットワークを広げることで、障がいのある人、ない人に関わらず、子どもからお年寄りまで、すべての人が表現の楽しさや自由を再発見し、ほんとうの意味での豊かな社会の構築をめざしています。

＜お問合せ＞ 財団法人たんぽぽの家 〒630-8044 奈良県奈良市六条西3-25-4 Tel.0742-43-7055 Fax.0742-49-5501 URL:http://popo.or.jp

20年ほど前に絵本作家のはたよしこさんが西宮市のすずかけ作業所ではじめた絵画クラブをきっかけに、得意にしていることを仕事につなげようという想いを込めて、すずかけ作業所の商品開発部門の役割を担って2001年に創設されたのが、あとりえすずかけです。

最初は、ポストカードの制作がメインでしたが、作家の個性に合わせて商品化を図っていくうちに、アイテムがどんどん拡がってきて、いまではTシャツや手ぬい、バッグなど雑貨展ができるくらい幅広い作家を持つようになりました。現在、22人の作家が制作に取り組んでいます。

あとりえすずかけでは、制作活動を仕事と捉えています。作家たちも制作活動を仕事と認識していて、あとりえで制作しているときは仕事モードになります。また、あとりえすずかけでは、作品と商品を明確に分けています。そこには、作品も商品もどちらもアートだけれど、展示して見ってもらって「感動」を与える作品と買っていただくことで「よろこび」を共有してもらえる商品、それぞれの役割を明確にしたいという想いがあります。商品に関しては、買ってくれた人がいることを知ることが、作家の次の創作へのモチベーションを高める「よろこび」にもなっています。作家たちは、制作という仕事を通してプロフェッショナルになっているのです。

個性が活きる一点ものの商品にこだわり、「よろこび」の共有をめざしています。あとりえすずかけ



勇気が出た、元気が出た…。作品にふれた人にとって栄養になるようなものがアートなのかも…。と、あとりえすずかけのスタッフ大島佐智子さん(右)と三橋香織さん(左)は語ってくれました。

あとりえすずかけのポリシーは、「作家の個性を活かすこと」。キャラクターが得意な人もいれば、印刷のように同じものを描ける人もいます。そこで、スタッフは、筆などの道具から絵具の種類や色まで、一人ひとりのよさを見つけて、その個性に合ったものを探します。また、商品づくりの際、スタッフは作家に対して、さまざまなアドバイスを行います。作品づくりの場合は、作家の描きたいように描いてもらうようにしていますが、商品づくりにおいては、作家とスタッフがお互いの考えを共有し、ひもをつくらなければならないことから、くつつたり積み上げたりしながら、立体を把握し、表現する力や対象物をとらえる感性を大切にすることを重視して、試行錯誤しながら造形に取り組んでいます。

＜お問合せ＞ 武庫川すずかけ作業所 あとりえすずかけ 〒663-8131 兵庫県西宮市武庫川町4-1 Tel.0798-43-3760 Fax.0798-43-1443 URL: http://www.ichiyou-kai.or.jp/mukosuzu/index.html

連れて帰る感覚の個性的な陶芸作品たち。縄文テイストを活かしたアート活動を実践。土の子陶房



1985年に、陶芸家の西念秋夫さんの指導のもと設立された土の子陶房は、「マインドアート」をキーワードに縄文テイストを活かした陶芸を中心とするアート活動を行っています。当初は、自立を志す視覚障がいメンバーが中心でしたが、1993年のデイセンターせんなんの誕生とともに陶芸グループを結成。陶土で丸い玉をつくらせたり、ひもをつくらせたりすることから始まり、くつつたり積み上げたりしながら、立体を把握し、表現する力や対象物をとらえる感性を大切にすることを重視して、試行錯誤しながら造形に取り組んでいます。

日本最初の焼きメの陶器である須恵器の産地として大和朝廷の時代から知られている泉州産土の赤土を用いた縄文粘土を使い、マキで焼成された作品には、観た人ふれた人の心を捉えて離さない屈託のない魅力にあふれています。土の子の作品を買っていく人はよく「連れて帰る」と表現されますが、それはもしかすると、自分の分身あるいは家族の一員のような存在なのかもしれません。

2000年8月、土の子に大きな転機がやってきました。若手作家の登竜門的な存在として知られる天満屋岡山店美術画廊において「マインドアート」作品展「ぬくもりの世界」を開催したのです。この

晴舞台での経験は、メンバーにとってかけがえのない自信となりました。そして、作品展をご覧いただいた方々との新たな出会いも生み出しました。

現在は、作陶から窯業へと活動概念を拡げて、これまでのマインドアートに代表される造形への取り組みとともに、型で粘土を抜いたり、型に押し込んだりする作品づくりも実践しています。そのひとつが、「だんじりはしおき」。このよう



なにかになるかと、観たふれた人々に、答えをくれるのではなく、質問をしてくるようなものがアートなのでは、と語る土の子陶房主宰の松岡麻彦さん(左)とマネージャーの中川仁理子さん(右)。

な活動により、より多くのメンバーが陶芸作業に向き合えるようになりました。

土の子の作品は、土づくり、マキづくり、そして作品づくりの三つがひとつになって、はじめて「土の子」になります。そんな想いを礎に、これからも、メンバーはもちろん、地域に貢献できるアート活動を展開していきたいと考えています。

＜お問合せ＞ 土の子陶房 〒596-0808 大阪府岸和田市三田町1336 東山自立センター Tel.072-445-7168 Fax.072-445-5207 URL: http://tsuchinoko.kt.fc2.com/



生きるよろこびをみんなのものに。ビッグ・アイは、アートのハブをめざします。

ビッグ・アイ「アート・プロジェクト」開始。

アートは、決して難しいものでも特別なものでもありません。誰もがもっと気軽にふれあうことのできる、いわばコミュニケーションツールのひとつともなりません。

アートは、人の感性を育て、豊かな包容力を生み出すなど、人間性を培う方法のひとつと言えます。作品と接する人たちの「感性の扉」を開け放ち、感動やよろこびを与えてくれます。この言葉にならない、言葉にできない共感こそが、アートのひとつ機能なのです。そんな考えのもと、新生ビッグ・アイは、「アート・プロジェクト」をスタートさせます。

これまで、自分は芸術とは関係ないと思ってきた人たちが好きだけ制作してみる勇気のなかった人たちに、アートを開放するような活動を興していきたいと思います。そして、アートと社会の橋渡しができたら、とも考えています。

新生ビッグ・アイがめざしているのは、「アートのハブ」となること。情報の発信源であるとともに、収集装置ともなるような、アートの核拠点です。生きるよろこびをみんなのものに。そんな想いを胸に、新生ビッグ・アイは新たな歩みを踏み出します。ご期待ください。

ビッグ・アイ「アート・プロジェクト」第一弾

作品募集

国内外に広く門戸をひらき、障がいのある方さまざまなアート作品を募集します。応募いただいた作品は、1次選考を経てビッグ・アイでの展示会で発表するほか、さらに2次選考を通過した作品については、国内外での展示など、社会への発信の機会を提供していきます。

- 募集要項... 応募資格 国内外の障がいのある方。個人/グループは問いません。募集内容 絵画、イラスト、CG(印刷物)、書、写真、造形、工芸などのアート作品をご応募ください。応募締切 2011年10月20日(木)必着。応募方法 ビッグ・アイのホームページ(http://www.big-i.jp/)に掲載された応募用紙に必要事項を記入のうえ、作品写真を同封し、封書で下記の応募先までお送りください。

- 作品写真について 額なしで撮影し、2Lサイズ(12.7cm×17.8cm)でプリントしてください。平面作品の場合は1枚、立体作品は3枚以内で作品の全体像がわかるようにしてください。写真の裏面には、作者名と作品名を明記してください。応募先 〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1 国際障害者交流センター「公募作品展」係 審査方法 1次審査(写真審査)・2次審査(実物審査) 入選特典 入選作品には賞状を贈呈し、なかでも優れた作品に対しては、施設内での展示や、国内外の展示会への出品のため、借用(若干の謝礼金あり)を申し込ませていただきます。また、意欲と才能のある作家の活動を応援し、活躍の場や機会を創出していきます。

お問い合わせ TEL.072-290-0962 / FAX.072-290-0972 / Eメール: museum@big-i.jp

ひとまずの結論... アートとは、生きるよろこびを分かち合うための絆。

みんなに、フレンドリーなギャラリーできました。ビッグ・アイギャラリー「i+(アイプラス)オープン!」利用無料 エントランスホールやホワイエなど、ビッグアイのバリエーションをギャラリーとして開放します。個展、グループ展など、さまざまな発表のスペースとしてご利用ください。

ビッグ・アイの運営に、あなたの声をお寄せください。ビッグ・アイモニター募集中! ご利用者の視点から、ビッグ・アイを評価してください。ビッグ・アイでは、よりご利用者や地域のためになる事業企画・運営を行うため、ビッグ・アイモニターを募集しています。

あなたの明日へエールを贈ります。第36回 わたぼうし音楽祭 2011年8/7(日) ゲスト: 第1回「韓国たぼうし音楽祭」 特別企画: わたぼうしの詩人たちが寄せられた希望の詩を紹介し、明日へエールを贈ります。

Present i-co 読者プレゼント 応募方法 郵便はがき、ファックス、メールにて、それぞれ、ご希望の商品(A・B・C・D)、お名前(ふりがな)、ご住所(郵便番号をお忘れなく)、お電話番号、本紙へのご感想やご希望、ご意見などをご記入いただき、ご応募ください。

編集後記 取材では、作家さんたちの制作現場を見せていただきました。どの作家さんも見ている人が驚くくらいの集中力で制作に取り組まれているのが、とても印象的でした。